

世田谷村日記

石山修武

三月十一日

小雨模様の、もう春の日。朝、石灯ろうについて書く。十一時過世田谷村発、新木場トモコーポレーション社屋現場へ向う。

十三時トモコーポレーション社屋新木場現場。コンテナが中国から運ばれてセットされていた。総計三〇台の40 Feetコンテナが仮設で置かれる予定だが、今日は十六台がセットされた。軽快で仲々良い感じである。いまにも動き出しそうなのが良。このニュアンスと重くてビクとも動かぬ感じがミックスされるのが理想形だろうな。二〇時過烏山宗柳で一人夕食を喰べ、世田谷村に戻る。二十三時まで眠る。仕事をして二時就寝。

三月十二日 土曜日

春になった。世田谷村のベストシーズンだ。家を明け放つて微風の中で生活ができる。七時四〇分起床。九時二〇分小田急線喜多見駅前コーヒーショップで原稿書く。造形論ノート。住宅ドキュメント。コンテナ論。いろいろうず巻き始めている。さて、動き始めるか。十時丁邸八大建設引渡し。十三時迄。若奥さんがイトークションで色んな部品をオークションで取り寄せたのがこの住宅の面白いところだった。しかし、そこから若干のトラブルも発生した。エトは速く、軽快だ。しかしエトオークションで届けられる実物は相変わらず重く、様々な情報程には自在ではない。船便が遅れたり、部品が足りなかったりとの不便さが発生した。又、オークションで購入した部品の保証の問題も発生した。オークシ

ョンを運営するIT企業はまだそこ迄手が廻らない。しかし、このやり方がこれからの住宅建設の主流になるだろう。「秋葉原感覚で住宅を考える」のが、こんな方法で実現されるとは四半世紀前には思っても見なかったが・・・時代は廻る。十三時過東京駅。十三時十六分発やまびこで一ノ関へ。十七時四十七分一ノ関着。途中雪が舞っていた。北は春いまだの風あり。十八時前ベアシー着。菅原正二、高橋邦夫夫妻と再会。ヤアヤアの挨拶を交わす。十九時頃、約束通り結城登美雄来る。芸術選奨受賞のお祝いを言う。農村計画の話少し計り。やっぱり現場を作ろうと言う事になる。結城氏東京に来てもう一度話そうと言う事になった。菅原、結城両氏に世田谷村日記私家本差し上げる。二〇時前ベアシー近くのレストラン、トロントで会食。顔なじみのマスターと再会。料理は相変わらず美味。結城氏とこれからの話す。農村計画は今が潮時である。二十一時前了。外は本格的な雪であった。結城氏と別れ、ベアシーに戻る。二十三時半迄談笑。雪が降り積もって真白になった車で、蔵ホテル一ノ関に送ってもらい、遅いチェックイン。二十四時前就寝。

三月十三日 日曜日

六時過目覚めて、再びウトウトしたりしている。夜明けの東の空にピンク色のマン・レイのくちびるみたいな雲が群れて浮いている。チョットと旅の気分だね。ボンヤリと時を過す。八時前チエックアウト。一ノ関駅迄雪上がりの道を歩く。八時十六分の仙台行鈍行に乗ってみる。昨夜の降雪の雪景色の中を走る。キラキラとまぶしい。九時三十五分仙台着。菜ノ花天ぷらソバの朝食をとり、約束の時間まで時間があるので構内のコーヒーショップでメモ。今日はメディアアークで終日全国の卒計を審査する事になっ

ている。結城は今日どこやららの村の閉村式に出掛けると言っていた。東北大スタッフと会い十時前仙台メディアアーク。十時四〇分、卒業設計日本一決定戦の会合。十時五〇分一次審査巡回。大勢の学生が参加して足踏み場もない。十二時二〇分休憩。昼食。予定が少し遅れて十四時三〇分開会式。十五時第二次審査。十八時迄、討議。参加者二千人で熱気がある。日本一、二、三を決める。十八時過審査結果発表。十八時三〇分開会式。十九時より一Fでパーティー。二〇時過ぎパーティーを抜け、阿部仁史氏等と会食。二十四時、三井アーバンホテル、チエツクイン。

三月十四日

六時起床。昨日の日本中の学生達の卒計の印象を一言で言えば、漂流船団。エンジンの油は切れ、リーダーは風に飛ばされた。行方定まらないで、しかしプカリ、プカリと浮いている。

七時〇八分やまびこで東京へ。九時二四分東京駅。研究室へ向かう。十時十五分研究室。